



オリーブ通信

2018年
3月号
2018.3.17発行
第174号

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

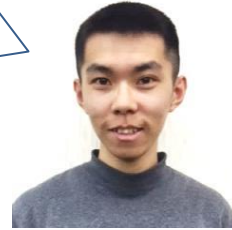
★N3 合格

先生たちのおかげでN3が合格できました。ありがとうございます。
ダダン サエプロ
(インドネシア)



★N1 合格

7月から重松先生と一緒に勉強しないと合格することは決まらなかった。重松先生、ありがとうございます。
呉柏成 (台湾)



★N4 合格

ごうかしました。私のきもちがうれしいです。次の7月にN3うけるつもりです。今は漢字がにがてですから、たくさんかんじをべんきょうしたいです。
グエン クアン ミン
(ベトナム)

★N3 合格

とてもうれしかったです。つぎはN2がんばります。
グエン タイ ソアイン
(ベトナム)



★N3 合格

うれしかったです。つぎはN2がんばります。黄秀
(中国)



★N3 合格

辻先生のおかげでN3合格しました。嬉しかった。1年かんオリーブ教室通じて日本語が上手になりました。これからも頑張ります。よろしくお願ひします。
グエン ヴァン トウエン (ベトナム)



★N3 合格

N3合格時はうれしいです。永井せんせいおしえました。ありがとうございます。
ハーミン (ベトナム)



みなさん、おめでとうございます！ 原稿締切日の関係でここに載せられなかった人、ごめんなさい。

中川先生のへんてこ日本語

91

リベンジ

冬季オリンピックの選手インタビューを聞いていたら、次のような発言があった。

いちばんいい色のメダルを取らなかった選手が、「またリベンジします」。私にはこの「リベンジ」という言葉がとてもキツク聞こえた。しょせん「復讐」という言葉を外来語で置き換えているだけではないか。次にインタビューに応じた選手は、「また挑戦します」。日本人らしい、謙虚な表現であると、私自身も元気をもらったような気がする。

日本の歴史において、復讐が復讐を生み、戦禍の絶えなかったことを思い起こしてほしい。

日本語には、便所をトイレ、地下通路をアンダーパス、乗務員をアテンダント、コーヒー店をカフェなどと置き換えることによって、洒落た(センスある)表現に変える風潮があるのは確かである。しかし言葉の中身そのものに変化は生じない。

私が「リベンジ」に語気の強さを感じたのは、ただ粋な表現に換えただけだとは思えなかったからである。「日本語らしい」表現とは、「挑戦する」「がんばる」「いちから出直す」など、日本人の精神文化を表す言葉にこそあるのではないかと感じた。

うちの学校は小さいです／うちの学校は小ぢんまりとしています。あなたならどちらの学校がフレンドリーだと感じるだろうか。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄



たのしかった ぬきたくなかった 着物体験!



オリーブの活動拠点である、まちセンの15周年イベントが3月3日に開催されました。つむぎ会の新井さんより声をかけていただき、オリーブとのコラボで「外国人のための着物着付け体験」が実現しました。

当日、オリーブの学習者さん23名が、満面の笑顔で着物を着て、準備していただいた写真コーナーでの撮影会を楽しむことができました。

<参加者の感想>

- ・ 今日の着物体験はとてうれしいです。日本の着物がきれいで、正式感がある。着物をきせてくださった先生、お疲れさまです。本当にありがとうございます。(中国・女性)
- ・ 今日の着物体験で、日本の伝統文化を感じました。この体験に感謝です。みなさんありがとうございます。(中国・女性)
- ・ 私は着物をはじめて着ます。うれしいです。私は着物が好きです。ありがとうございます。(タイ・女性)
- ・ とてうれしい。また着たい。脱ぎたくなかった。(インドネシア・男性)
- ・ はじめて着物を着ました。ほんとに素晴らしい体験です。日本人っぽくなりました。着物も買いたくなる。また着たい。(インドネシア・男性)
- ・ たのしかったです。ありがとうございます。(ベトナム・男性)

みなさんから、たくさんの喜びの声をいただきました。

着物の準備から、写真コーナーのアレンジまでしてくださったつむぎの会の方々や当日オリーブからお手伝いに来ていただいた、田中さん、花岡さん、福井さんに心から感謝いたします。



レポート：前田智代



3月4日、今年もボランティアで日本語スピーチ大会に一日関わり、またスピーチも聞くことができました。今年にはインドネシア5名、中国4名、ベトナム2名、フィリピン2名、アメリカ1名、ポルトガル1名の15名のスピーチ参加者でした。

あるインドネシア男性のスピーチには、同じ会社の仲間からでしょうか、国旗をもったインドネシア人の観客席からの声援も多かったです。団結心が強いな、と感じました。

最優秀賞はそのインドネシア人発表者が獲得しました。

「君の名は」というタイトルでインドネシアでの名前の付け方を日本と比較しながら説明していました。日本のように、名字と名前の二つという決まりはなく、自由にいくつもくっつけられると聞いて、へえ～と思いました。

また、今回は夢を語られる発表者が多かったようです。

日本に来たい、という長年の夢を実現させたインドネシア女性。帰国後、会社を作りたい、カフェを開きたいと言っていたインドネシア男性2人、日本で輸入会社を営んでポルトガルの物産を日本に広めたい、と言う日本人と結婚されているポルトガル男性。

オリーブの生徒さんにも言えますが、特にインドネシアの方は夢や目的を持って日本滞在を有意義にしようという志の高い男女が多いな、という印象を受けました。

皆さん、それぞれに思いや感じたこと、日本と母国との違い、これからの夢を語られたスピーチでした。オリーブから発表された張潔さんもお疲れさまでした。



先生たちの「エッセイ」 #16 和田寿美さん

今日より明日

皆さんは、毎日の生活の中で、いつまで今の生活を続けられるんだろうと思うことはありませんか？平凡な日々の繰り返しの、このままでいいのかな？なんて思うことは。

私はあることがきっかけで、自分に残された時間について考えるようになりました。ふり返ってみると、大学を卒業して就職、結婚、出産、子育てと無我夢中で突っ走ってきました。そして今、自分のために時間が取れるようになり、「何かしたいことはあるの？」「今日の一日に満足しているの？」と自分に問いかけています。

一番最初に思うことは、毎日を丁寧に積み重ねることです。当たり前のことだけど、掃除や洗濯をしたり、ご飯を作ったり。たまにはお菓子を手作りしたり。庭には季節の花を植えて、目や心を喜ばせようと。そして目下の目標は、果実のなる木を植えること。収穫した果実で、ジャムなどの保存食を作ることを計画中、考えているだけで頬が緩みます。

それから、大好きな旅に出ること。遠い所へ行くこともあれば、日帰りや半日の小旅行もありますし、ひとり旅もあれば、友だちや娘たちと出かけることもあります。色んな人と出会い、色んな物を見たり聞いたり、体験したり感じたり。外の世界と繋がることは、ふわっと体が軽くなって、新しい自分に気付く良い機会になり、明日へのエネルギーです。



もう一つの楽しみは、美術館や博物館に行ったり、コンサートに出かけることです。専門的な知識はありませんが、建物に入った瞬間のぴーんと張り詰めた空気が好きなのと、今まで触れたことのない新しい世界を知ることができるからです。私に残された時間を確認することはできないけれど、これからも心豊かな暮らしを続けるために、常に好奇心を持って、自分のペースで生きていきたいと思います。



